

講義名	コミュニケーション心理学			授業形態	
担当教員	西尾 範博	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング・コード	SOP180

主題と概要

この授業では、コミュニケーションを心理学、とりわけカウンセリング心理学の知見から捉え、相互理解と信頼、成長を促す質の高いコミュニケーションのあり方について理解を深め、実践する機会を提供する。受講した学生が次のような力を身につける契機が得られるような講義を展開する。

- (1) 家族、友人、知人、クラブ、サークル仲間等々、日頃出会う人びとのコミュニケーションの質を高め、相互理解と信頼、成長を促す力。
- (2) 接客の場面において、顧客のニーズを最大限引き出し、満足度を高める力。
- (3) 援助・指導の必要な人のニーズを最大限引き出し、最も適切な援助・指導を行う能力を高める力。
- (4) 指導の場面で、指導対象の思いや考えを最大限引き出し、指導の効果を高め、成長を促す力。

到達目標

- (1) コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解し、説明できる。
- (2) コミュニケーションにおける「聞き手目線」と「話し手目線」の違いを理解し、説明できる。
- (3) 非受容を示すコミュニケーション、受容を示すコミュニケーションがどのようなかを理解し、説明できる。
- (4) 受容を生み出す力を理解し、説明できる。
- (5) コミュニケーションにおける5つの対応の仕方を理解し、説明できる。
- (6) 共感的理解と感情的癒着・同一化について理解し、説明できる。
- (7) アクティブ・リスニングについて理解し、説明できる。
- (8) 問題を抱えた人の助けとなるよう相手を受容し、その真意を理解することができる。
- (9) コミュニケーションのとり方について日常的に練習を積み、信頼関係を築くことができる。

提出課題

ほぼ毎回の授業において考察課題を予定している。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題やレポート等の提出課題に書かれた内容を翌週の授業で話題にし、前回の授業の振り返りや補足説明の機会をとるとともに、翌週の授業内容に組みこんで授業の新たな展開に役立てることにより、学生の理解に即して学生の理解を深めるようにし、到達目標の達成につなげる。

評価の基準

毎回の授業で講義やレポート等をもとに、到達目標に照らして総合的に評価する（詳細は授業中に示す）。なお、欠席回数が5回になったところで、原則としてこの科目を放棄したものとみなし、評価の対象から外れるので注意すること。

履修にあたっての注意・助言他

- 次の3点が求められることをあらかじめ理解し、実践すること。
- (1) 毎回熱心にノートをとりがら学ぶこと。
 - (2) 担当教員の指示に思い積極的に主体的に学ぶこと。
 - (3) 授業中に学んだことを授業の中で終わらせずに日常生活において実際に試してみる、練習していただくことにより、知識を知識で終わらせずに日常生活において実践し活用できるよう努めること。

教科書

なし。					
-----	--	--	--	--	--

参考図書

なし。					
-----	--	--	--	--	--

その他

ほぼ毎回、教材プリントを配布するので、整理保管に努めること。参考文献については、随時多数紹介するので、積極的に読み、考え、学ぶことが期待される。

授業計画

- 1 コミュニケーション・モデル
(予備)「コミュニケーション・モデル」とは何かについて事前に調べ、大まかに理解しておくこと(60分)
(復習)配布資料を使って授業内容を復習し、授業中に提示された課題に取り組みとともに、学んだことを日常生活で試してみること(180分)
- 2 コミュニケーション・スタイル(「ノー」を「イエス」に変える7つの切り口)
(予備)「ノー」を「イエス」に変える7つの切り口とは何かについて事前に調べ、大まかに理解しておくこと(80分)
(復習)配布資料を使って授業内容を復習し、授業中に提示された課題に取り組みとともに、学んだことを日常生活で試してみること(150分)
- 3 コミュニケーション・スタイル(自動的反応を引き出す6つの「武器」)
(予備)自動的反応を引き出す6つの「武器」とは何かについて事前に調べ、大まかに理解しておくこと(80分)
(復習)配布資料を使って授業内容を復習し、授業中に提示された課題に取り組みとともに、学んだことを日常生活で試してみること(150分)
- 4 5つの対応の仕方の分類と整理
(予備)事前配布資料について指示通り予習を行い、結果を授業に持参すること(90分)
(復習)授業内容を振り返り、授業中に提示された「本日の授業課題」に取り組みとともに、学んだことを日常生活で試してみること(150分)
- 5 非受容的なコミュニケーション、その特徴
(予備)「非受容」「自分目線」「相手目線」とは何かについて事前に調べ、大まかに理解しておくこと(80分)
(復習)配布資料を使って授業内容を復習し、授業中に提示された課題に取り組みとともに、学んだことを日常生活で試してみること(150分)
- 6 非受容的なコミュニケーション「自分目線」の具体例(友人編)
(予備)あなたが友人との間での「自分目線」「相手目線」の具体例を1つ事前にまとも、授業中に発表できるようにしておくこと(90分)
(復習)配布資料を使って授業内容を復習し、授業中に提示された課題に取り組みとともに、学んだことを日常生活で試してみること(150分)
- 7 非受容的なコミュニケーション「自分目線」(父子、母子、夫婦編)
(予備)あなたが両親との間での「自分目線」の具体例を1つ事前にまとも、授業中に発表できるようにしておくこと(90分)
(復習)配布資料を使って授業内容を復習し、授業中に提示された課題に取り組みとともに、学んだことを日常生活で試してみること(150分)
- 8 非受容的なコミュニケーション「自分目線」(教師と生徒編)
(予備)あなたが高校時代に実際に経験した教師と生徒との間での「自分目線」の具体例を1つ事前にまとも、授業中に発表できるようにしておくこと(90分)
(復習)授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(150分)
- 9 受容的なコミュニケーション 受容の具体例(友人、父子、母子、夫婦編)
(予備)あなたが友人との間での「聞き手目線」の具体例、ご両親との間での「聞き手目線」の具体例を1つずつ事前にまとも、授業中に発表できるようにしておくこと(90分)
(復習)授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(150分)
- 10 受容的なコミュニケーション 受容の特徴(教師と生徒、看護師と患者、患者と患者編)
(予備)あなたが高校時代に実際に経験した教師と生徒との間での「聞き手目線」の具体例を1つ事前にまとも、授業中に発表できるようにしておくこと(90分)
(復習)授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(150分)
- 11 5つの対応の仕方と「自分目線」「相手目線」
(予備)あなたが高校時代に実際に経験した教師と生徒との間での「聞き手目線」の具体例をさらに1つ事前にまとも、授業中に発表できるようにしておくこと(90分)
(復習)授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(150分)
- 12 「自分目線」「相手目線」と非受容、受容
(予備)第4回～第11回の授業内容を振り返り、その要点を理解しなおしておくこと(120分)
(復習)第4回～第11回の授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(120分)
- 13 受容と共感的理解、受容と非受容のまとめ
(予備)「受容と評価」に関する事前配布資料を読み、その要点を理解しておくこと(90分)
(復習)授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(150分)
- 14 共感的理解と感情的癒着・同一化、アクティブ・リスニング
(予備)「共感的理解」「感情的癒着」「同一化」に関する事前配布資料を読み、その要点を理解しておくこと(90分)
(復習)授業内容を振り返り、授業中に提示される「本日の授業課題」にしっかりと取り組み、学んだことを日常生活で実際に試してみること(150分)
- 15 全体の振り返りとまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、上記の主題と概要、授業計画のもとで到達目標の達成をもって、本学のディプロマ・ポリシーである次の5点に貢献する。「ネアカのびのび「へこたれず」の精神を持った人材、知識を知恵に転換することができる人材、創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材、自主・自立の精神を持った人材、仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材を育成すること。ならびに、心理コースが育成を目指す「さまざまな課題に挑戦する人間性の発達を心理学に分析し予測することができる」と、「コミュニケーション能力と、消費者と援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面において心理学を応用することができる」とも目指す。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回の授業の冒頭で前回の復習をかねて、前回の課題を話題に取り上げ、学生とのやりとりを行い、共有を図る。授業中に学生に問いかけ返答を求める機会をつくりながら進める。グループワークを通じて双方向性を高める。アクティブラーニングを活用して、学生の考えや理解をその場で把握し、学びの質を高める。以上の4点をもって到達目標の達成に努める。

実務経験の有無及び活用

備考

毎回の授業に遅刻・欠席せずに主体的かつ意欲的に取り組む学生の受講を歓迎する。